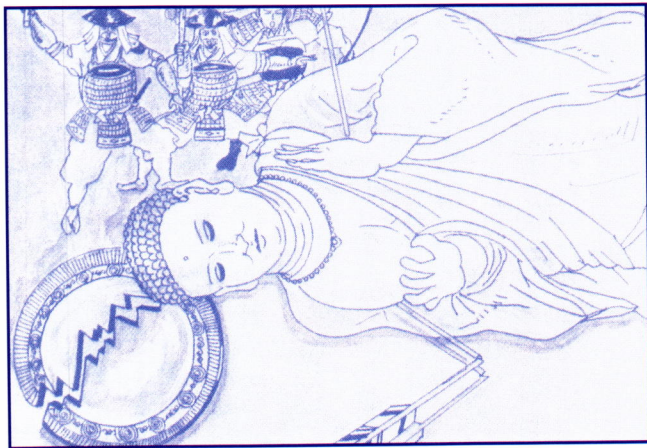


柏尾にある薬師如来像は、その起源を戦国時代にさかのぼります。とある日の夕闇迫るころ、尼子軍と毛利軍が対峙し、一触即発する状況下、河原田を渡って白馬に乗った武将が駆け込んできました。「敵の大將ぞ、かかれ」とどちらの下知とも知れず号令が発せられ、一斉に弓矢が放たれると、しばらくして人馬ともに崩れ落ちるのが見えたのであります。それを見た双方の兵士は、我先にとその武将の首級を上げようと走ります。しかし、そこにはすでに武将も馬もその姿はなく、ただ一体の仏像が横たわっていたのです。嘸然とする兵士はしばらくして引き上げました。その様子を陰で息を殺して見ていた柏尾の人たちは、その仏



はつかさん

第 12 号

発行  
天津地域振興協議会  
総務企画部編集委員会  
印刷  
米子ワークホーム

像を持ちかえり、武將の身代わりとしてねんごろに吊いごつを行っていました。

安置したのです。柏尾の双矢の薬師は、幾度の変遷を経て戦中戦後の時代になりました。

今の公民館の敷地全体は薬師堂の境内で、大きな草葺の堂があり、庵主さんがおられて、子どもの遊び場、老人の集会所として使われ、時には数珠送りの数珠の音がしたり、祈祷ごとや、時を知らせるつり鐘がありました。つり鐘は戦争のために供出させられてしまいました。

堂の老朽化も進み、また戦後の食糧難、物不足、価値観の急変する時代に移り、それでも今のブロックの小さな建物へと移されて現在に至っています。

十年余り前に、あまり見向きもされない薬師さんを何とかしようと思志が集まり、会員を募り毎月第一と第三の朝、賑わいごとを行ふこととし、年一回例大祭を営み法要、法話を高齢者を招いて接待しています。また、会員の研修小旅行を年に二回行うなど、楽しみながら「健康で長寿」を合言葉に細々ながら活動を続けています。柏尾の双矢の薬師さんは、人の尊厳が守れると言ったためのシンボリック存在でもあるのです。

(柏尾双矢の薬師朝一会員)





境の公民館があつという間にきれいになりました

境あじさい会と  
ほほえみ会

# いきいきサロン紹介

境には、二つのいきいきサロンがあります。東光寺・西原で集まる『あじさい会』と明枝の『ほほえみ会』です。

あじさい会の会員は十二名です。五月には、「境は黄色いバスが通らんけん一回乗ってみたい」という意見が出たので、バスに乗って町内を一周し、花回廊へ出かけました。花回廊へ向かう途中、バスの中ではいろいろな話題が飛び交い楽しいひと時を過ごすことができました。

ほほえみ会は、十一名で活動しています。「体に気を付けて、いつまでも元気に過ごそう」を motto に、集会所で調理実習をしたりしています。四月は巻き寿司、五月は笹巻きを作り、皆でおいしくいただきました。

普段はそれぞれの会で活動をしています。年に四回は交流を深めるため、合同で草取りをしたり、花見に行ったり、紅葉狩りに行ったりしています。

これからも、皆さんにニコニコ楽しく会に参加してもらえよう、世話人一同協力し合っていきたいと思ひます。

(世話人代表 丸山 智子)



手巻き寿司づくり (ほほえみ会)



バラに囲まれ記念撮影 (あじさい会)



青色の路側帯

鳥取県は、安全で安心な歩行空間を確保するため、歩道未整備で児童生徒の安全が確保されていない箇所について順次整備を行っています。この度国道180号線の谷川地内の整備が行われることとなりました。

カラー舗装により路側帯と車道との境界を強調し、歩行者や自転車の安全対策を図っています。

## 国道180号線 (谷川地内) 道路肩部分の完成

平成二十三年三月に国道180号線の谷川地区内(通称「峰の坂」)に、全長270.9m、幅は0.65mから1.45mの自転車歩行者道が整備されました。路面が鮮やかな青色に塗られているところです。

あの人  
この人  
ふるさとへの  
期待を背に  
谷川出身 野口裕美さん

野口裕美さんが昨春秋、米子市内で記念講演をした。

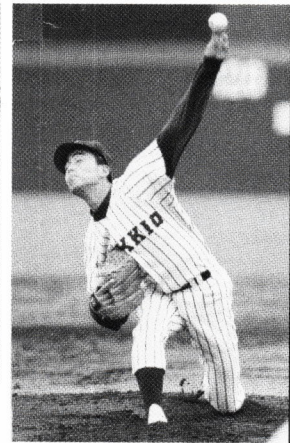
選抜甲子園のマウンド、立教での奪三振記録、西武ライオンズで競ったプロの一流選手たちなど、数々の思い出を熱く振り返った。

今までの自分を支え、応援してくれた周りの人々への敬意、感謝を語る裕美さんの謙虚な人柄が実にさわやかな印象であった。

野球人生に一区切り付けた後は会社員に転身。海外にも名の知られた半導体機器の有力会社で、今は営業の統括部長として世界を駆け巡っている。

野球以外の実力も遺憾なく発揮し、今やビジネス誌に名前が載るほどの有名人。昭和三十五年生まれの五十歳。まだこれからである。いつの日にか、このふるさとで裕美さんが「我が原点は天津」と題して講演をしてくれることを心待ちにしている。

東京六大学野球で、新記録96シーズン奪三振  
立教に野口ありと神宮を沸かす



梨田監督（日本ハム）と親しく交歓  
平成22年



米子東高同窓会 定期総会で記念講演 約200名の盛況  
米子全日空ホテル 平成22年9月

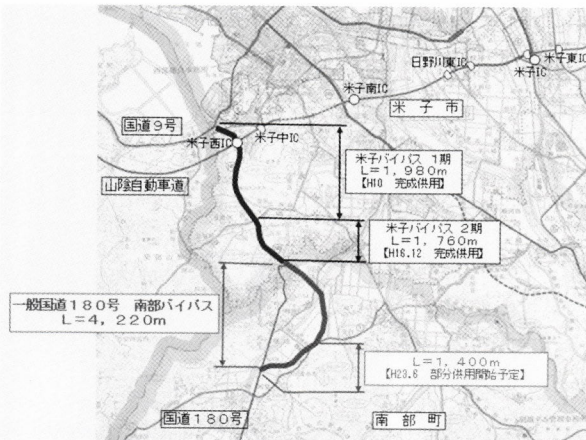
南部バイパス  
部分併用開始

平成二十三年六月二十九日(水)午後一時から南部バイパスの一部区間(南部町阿賀から清水川まで)の部分併用が開始されました。

一般国道180号線は、岡山県岡山市を起点とし、鳥取県米子市を経由、島根県松江市に至る延長約205kmの幹線道路です。現在の阿賀から米子市吉谷はカーブが多く、道幅も狭く、人家も連なっており、慢性的な交通渋滞が発生しています。また事故多発箇所が点在し、住民生活の安全を確保するための対策が求められております。

この対策として、南部バイパスが計画され、南部町阿賀から米子市吉谷までの延長約4.2kmの二車線道路として、平成二十五年度の併用を目指し推進されています。この道路により、現道通過交通が排除され安全性が向上するとともに、交通量の分散により交通渋滞の緩和が期待されます。また山陰自動車道と一体となった広域ネットワークの形成や生活圏中心部(米子市)へのアクセス向上が期待でき、日常生活はもとより、沿線宅地開発、工業活動支援、観光

位置図



促進などの社会経済活動に寄与することが期待されています。





四月二十九日(金) 柏尾子ども会は、「震災に備えて、野山の食べられる野草・山菜を知らそう」と大山青年の家から鷺見さんを講師に招いて、母塚山や法勝寺川の土手へ出かけ野草・山菜採りをしました。

母塚山では、ワラビやコシアブラなどの山菜、法勝寺川の土手ではサジツボ、ゴズの葉、シイバなど

どの野草をたくさん採って公民館に持ち帰りました。

公民館で、鷺見さんに名前を教わりながら野草や山菜の仕分けをし、お母さんたちに天ぷらにしてみました。お母さんたちが用意してくれた筍ご飯と、母塚山で採ったクロモジという樹を煎じたお茶をみんなでおいしくいただきました。

普段よく見かける田んぼのケタの草が、天ぷらにするとこんなにおいしく食べられるという発見ができ、大人も子どもも大変勉強になった一日でした。これで食糧難になっても大丈夫かな？

(柏尾育成会長 生田 則朗)



編集後記

広報「はつかさん」は、平成二十年九月に第一号が発行されご愛読いただいています。本年七月発行の第十二号からは編集委員が新メンバーに代わりました。天津の皆さんに、より親しんでいただける紙面を構成するため、地域の話題、歴史、人物、グループなどを各集落順番に取り上げていきます。地域にはまだまだ知られていない情報がたくさんあります。そうした情報を編集部で取材をし、またレポートも頂き紙面に活かしていきたいと思っています。

天津の皆さんのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(野口 隆資)



平成二十三年度の  
広報編集委員紹介

- 野口 隆資(谷川)
- 本田 靖(清水川)
- 渡邊 悦朗(上阿賀)
- 野口 賢治(谷川)